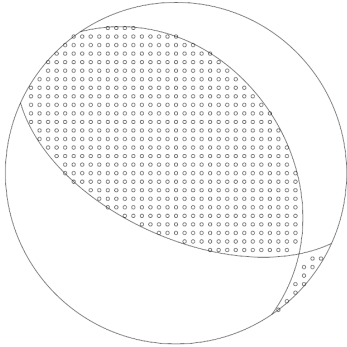


## 7月28日 インドネシア、パプアの地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

### W-phase による解

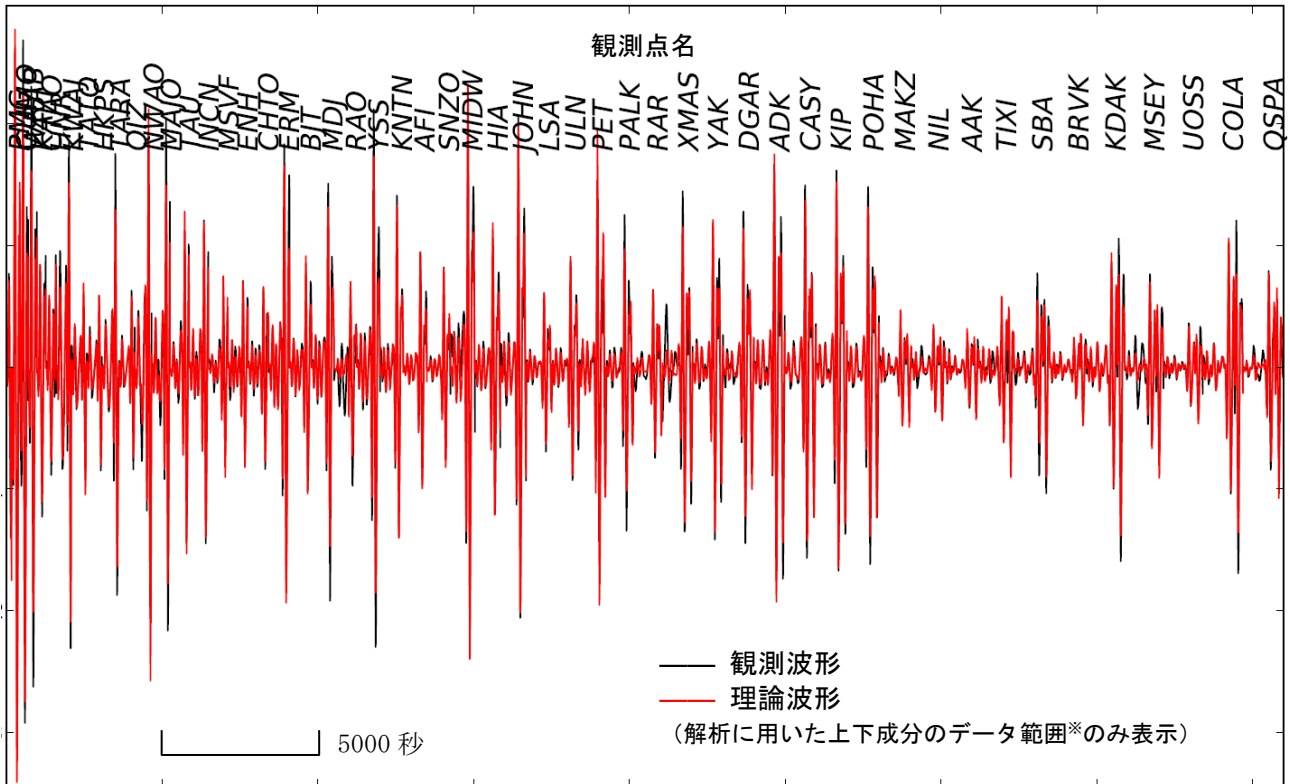


2015年7月28日06時41分(日本時間)にインドネシア、パプアで発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.0であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源はS2.6°、E138.5°、深さ46kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離10°~90°までの52観測点の上下成分、39観測点の水平成分を用い、100~300秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M <sub>0</sub>	断層面解1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解2 (走向/傾斜/すべり角)
7.0	3.82×10 <sup>19</sup> Nm	325.9° / 34.6° / 116.9°	114.3° / 59.6° / 72.7°



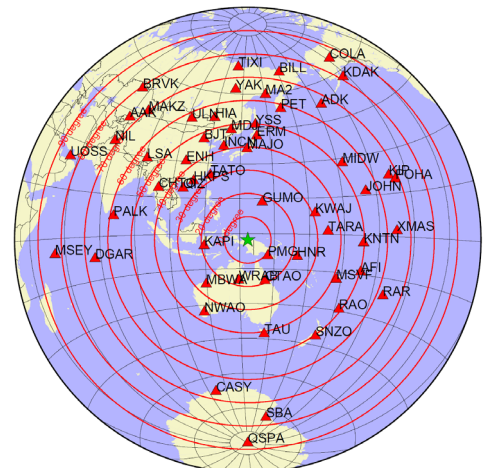
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成